

キャンドルのつどい


1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果 ◎集団行動規律 仲間づくり協調性 自主性創意工夫

(2) ESDの課題解決に必要な7つの能力・態度

⑥つながりを尊重する態度 人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度


2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	<p>ろうそくの炎を囲み、歌やレクリエーションなどを行うことで連帯感や友情を深めることができます。</p> <p>研修の始めの方に実施すれば緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後に実施すれば研修のまとめや自己を深く見つめる場になります。</p>				
諸条件	実施形態	指導可能(有料) 団体での自主活動も可能 (自主活動でも 安全指導は必須:無料)		提出書類	食事・教材注文票(ろうそくの注文)
	必要経費	<p>【指導依頼をした場合】 一律5,000円+ろうそく代</p> <p>【自主活動の場合】 ろうそく代のみ</p> <p>※ろうそく代 体育館・講堂 1,600円 大研修室 1,050円</p>		所要時間	<p>【安全指導】20分</p> <p>【リハーサル】45分</p> <p>【本番】1.5~2時間</p> <p>第1部 迎え火のつどい</p> <p>第2部 交歓のつどい (レクリエーション・出し物)</p> <p>第3部 送り火のつどい</p>
	活動場所	体育館 講堂 大研修室		対象・人数	<p>【体育館】 300人程度まで</p> <p>【講堂】 200人程度まで</p>
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体に準備する物	
	<ul style="list-style-type: none"> キャンドル台セット 火の神衣装(ドレス・白衣) 放送・音響機器 懐中電灯 			<p>【事前】・係の選出(展開例参照) ※必須</p> <p>・せりふの確認と練習 ※必須</p> <p>・2部の出し物の準備 ※自主活動の場合</p> <p>【当日】・室内用のシューズ ※体育館の場合</p> <p>・出し物で必要なもの</p>	
役割分担	指導ありの場合			自主活動の場合	
	<p>1 準備、安全指導</p> <p>2 リハーサル(夕食等)</p> <p>3 キャンドルの集い実施 指導形態 A) 第1~第3部 B) 第1・第3部のみ C) 第2部のみ</p> <p>4 振り返り、片付け</p>			<p>交流の家職員主導で 16:20 までに開始</p> <p>1 物品の貸出・準備・安全指導</p> <p>①貸出物品の確認、機材操作の確認</p> <p>②キャンドル台の設置について</p> <p>③キャンドルの扱い方について</p> <p>④片づけについて(キャンドル台、シート)</p> <p>2 リハーサル ※交流の家職員で対応可能 (プラス45分程度必要)</p> <p>3 キャンドルの集い実施</p> <p>4 片付け、物品の返却</p>	

3 活動のふりかえりのポイント

視点:「人との関りや今までの生活を振り返り、これからの生活について考えることができたか」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p> <p>・自分自身や様々な人との関りについて振り返り、これからの生活などについて考えることで連帯感や友情について考える姿。</p>
---	---

5 その他

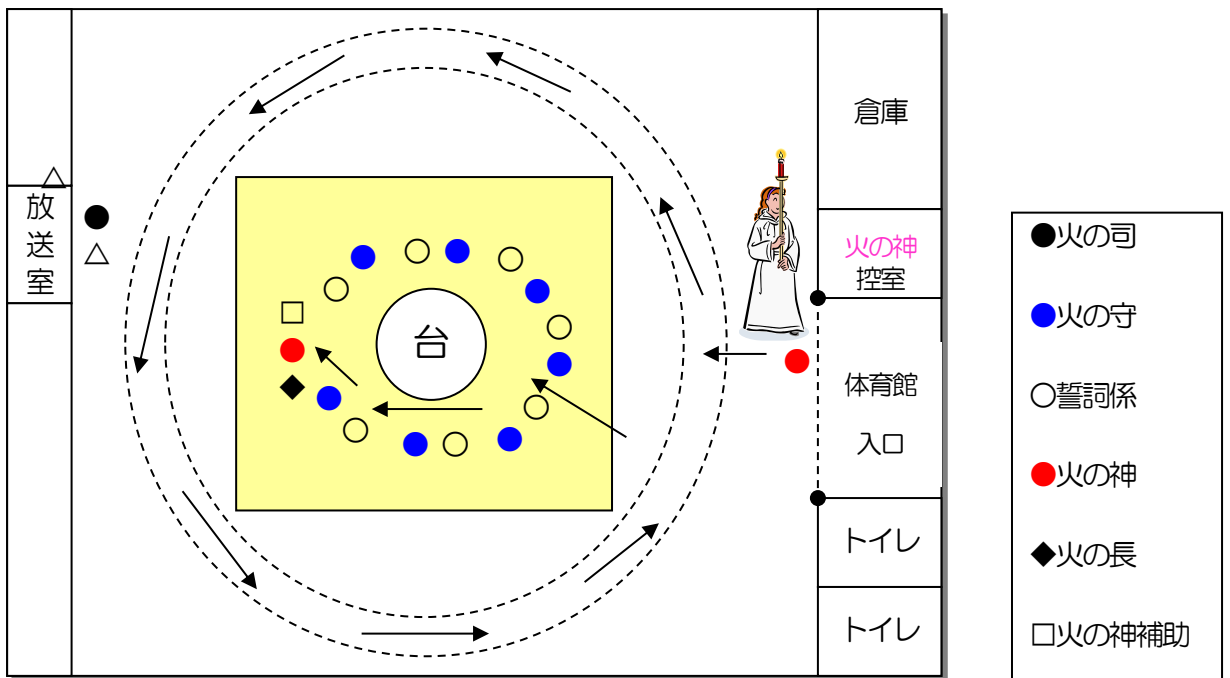
(1) 系の役割分担

係名(人数)	第1部	第3部	備考
火の神(1)	入場・分火	静火・退場	
火の長(1)	はじめの言葉	まとめの言葉	指導者からの選出が、一般的です。
火の司(1~2)	ナレーター		
火の守(5~10)※	受火・献火		火の守と誓詞係は同じ人数が一般的です。 例) 班から1名ずつなど
誓詞係(5~10)※	誓いの言葉		
献詩係(1)		詩の朗読	
音響係・照明係(各1)	BGMの調整・せりふにライトを当てる		
火の神補助(1)	火の神登壇時の補助		火の神が2人の場合は不要

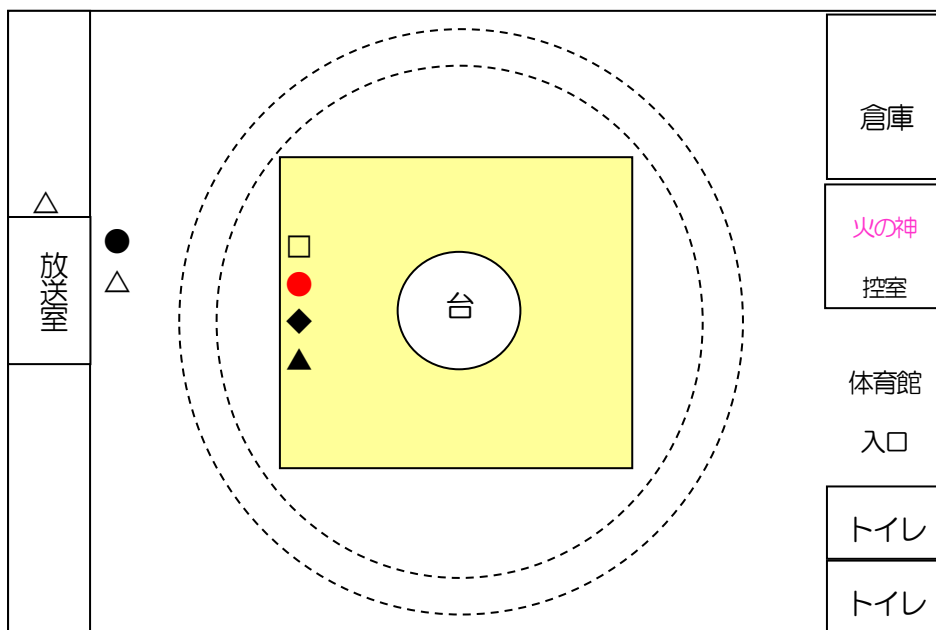
※ 学校の実態に応じて、火の守と誓詞係の人数は調整してください。

(2) 会場イメージ

【第1部】



【第3部】



- 火の司
- 火の守
- 誓詞係
- 火の神
- ◆火の長
- 火の神補助
- △音響・照明
- ▲献詩係

キャンドルの集い 展開例

国立阿蘇青少年交流の家

【第1部 迎え火のつどい】 ※静かな雰囲気の中で行う

①ナレーション

火の司 「ここ、阿蘇の地には、火山や草原、水源など雄大な自然が広がり、その自然は私たち人間にたくさんの恵みを与えてくれています。大昔から、阿蘇に住む人たちは、阿蘇の山々を『神様の住む山』、火山から生まれる火を『御神火』として大切にしてきました。この豊かで美しい自然と、生きている大地の鼓動に包まれた、ここ、阿蘇青少年交流の家も、また一日が終わろうとしています。自らの向上を願い、お互いの友情を深めようとして集まった（団体・学校名等）のみなさん、これよりキャンドルの集いを始めます。まもなく、『御神火』をたずさえた火の神の入場です。どうぞ、静かにお迎えください。」

②火の神の入場

火の神 入場（キャンドルをもって入口から入場）＋必要に応じて **BGM**

③はじめの言葉

火の司 「ここで、火の長よりお言葉をいただきます。」

火の長 「今、ここに皆さんの友情と団結のために御神火を迎えます。私たちは、この研修に参加することにより、仲間としてのきずなをさらに深めることができました。この研修を通じて、自ら考え自ら動くことの意義を体感し、規則正しい生活や自主的な生活体験が、自己を見つめ直す力を与えてくれることを知りました。また、多くの若き仲間のたくましさや、すばらしい行動から、多くのことを学びました。この聖なる御神火を囲んでのつどいが、一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく楽しい思い出となるよう祈りつつ、この集いを開きます。」

④分火 火の神から火の守へキャンドルの火を分火する。

火の司 「それでは、火の神より火の守へ『御神火』を分火いたします。」

火の神→火の守①に分火 「あなたには、『命の火』をあげましょう。」

火の守① 「私は、『命の火』をいただきました。」

火の神→火の守②に分火 「あなたには、『希望の火』をあげましょう。」

火の守② 「私は、『希望の火』をいただきました。」

火の神→火の守③に分火 「あなたには、『恵みの火』をあげましょう。」

火の守③ 「私は、『恵みの火』をいただきました。」

火の神→火の守④に分火 「あなたには、『絆の火』をあげましょう。」

火の守④ 「私は、『絆の火』をいただきました。」

火の神→火の守⑤に分火 「あなたには、『出会いの火』をあげましょう。」

火の守⑤ 「私は、『出会いの火』をいただきました。」

火の神→火の守⑥に分火 「あなたには、『仲間の火』をあげましょう。」

火の守⑥ 「私は、『仲間の火』をいただきました。」

火の神→火の守⑦に分火 「あなたには、『勇気の火』をあげましょう。」

火の守⑦ 「私は、『勇気の火』をいただきました。」

火の神→火の守⑧に分火 「あなたには、『思いやりの火』をあげましょう。」

火の守⑧ 「私は、『思いやりの火』をいただきました。」

火の神→火の守⑨に分火 「あなたには、『信頼の火』をあげましょう。」

火の守⑨ 「私は、『信頼の火』をいただきました。」

火の神→火の守⑩に分火 「あなたには、『誠実の火』をあげましょう。」

火の守⑩ 「私は、『誠実の火』をいただきました。」

火の神 手に持ったキャンドルをキャンドル台の最上部に置く

⑤誓いの言葉 誓詞係が誓いの言葉を述べる。

火の司 「ここで、誓詞係のみなさんから誓いの言葉をお願いします。」

誓詞係① 「私たちは、この研修で出会った命の大切さを忘れず、自分も周りの人も大切にすることを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係② 「私たちは、この研修で感じた希望の光を胸に、どんな困難にも前を向いて進むことを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係③ 「私たちは、この阿蘇の大地が与えてくれた恵みに感謝し、自然を大切にすることを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係④ 「私たちは、この研修で深めた仲間との絆を大切にし、互いを支え合っていくことを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑤ 「私たちは、この研修で生まれた出会いを宝として、これからも人との縁を大切にすることを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑥ 「私たちは、この研修で共に過ごした仲間のことを忘れず、どこにいても助け合っていくことを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑦ 「私たちは、この研修で学んだことを胸に、困難から逃げずに勇気をもって立ち向かうことを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑧ 「私たちは、自分のことだけでなく、まわりの人の気持ちを思いやり、行動することを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑨ 「私たちは、仲間を信頼し、自分も信頼される人間になるよう努力することを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

誓詞係⑩ 「私たちは、自分自身に誠実に、言葉と行動が一致した生き方をしていくことを誓います。(団体名、組・科 氏名)」

※誓詞係のセリフは上記を例として示しています。各団体で内容を考えてください。

⑥ 献火 火の司のナレーションにあわせて、火の守がキャンドル台へ火を移す。

火の司 「それでは、火の守によるキャンドル台への献火をおこないます。」

※火の司のナレーションにあわせて、火の守は、キャンドル台に献火する。

火の司 「最初のキャンドルに明かりが灯されます。この阿蘇の大地が育んできた、命の輝きがみなさんの心に宿りますように。」

火の守① 献火

火の司 「2番目のキャンドルに明かりが灯されます。野焼きの後に萌える草原のように、みなさんの明日に希望の光が広がりますように。」

火の守② 献火

火の司 「3番目のキャンドルに明かりが灯されます。阿蘇の大地から湧き出る清らかな水のように、みなさんへの恵みが満ちあふれますように。」

火の守③ 献火

火の司 「4番目のキャンドルに明かりが灯されます。この地に生きてきた人々が大切に守り伝えてきたように、みなさんの絆がいつまでも続きますように。」

火の守④ 献火

火の司 「5番目のキャンドルに明かりが灯されます。今宵がすばらしい出会いの時になりますように。」

火の守⑤ 献火

火の司 「6番目のキャンドルに明かりが灯されます。ここで出会った仲間との時間が、かけがえのないものになりますように。」

火の守⑥ 献火

火の司 「7番目のキャンドルに明かりが灯されます。困難にぶつかったとき、この火を思い出して勇気がわいてきますように。」

火の守⑦ 献火

火の司 「8番目のキャンドルに明かりが灯されます。まわりの人への思いやりの心が、これからも大きく育ちますように。」

火の守⑧ 献火

火の司 「9番目のキャンドルに明かりが灯されます。互いを信頼し、支え合える関係がみなさんの中に根づきますように。」

火の守⑨ 献火

火の司 「10番目のキャンドルに明かりが灯されます。自分自身に誠実に、真っすぐ歩いていけますように。」

火の守⑩ 献火

火の守①～⑩ 最後の火の守がキャンドルを置き終わったら、火の守全員でキャンドル台の残りのキャンドルに火をつけていく。+必要に応じて **BGM**

火の司 「最後のキャンドルに明かりが灯されました。今日の想いがみなさんの胸に輝く炎として、いつまでも燃え続けますように。」

⑦退場

火の司 「ここで、火の長、火の神、火の守、誓詞係が退場します。」

火の長・火の神・火の守・誓詞係 全員退場（後ろに下がる程度）

火の司 「みなさんの協力により、中央のキャンドル台に『御神火』を迎えることができました。これから、この火を囲んでの楽しい交歓のつどいに入っていきます。」

【第2部 交歓のつどい】 ※明るく楽しい雰囲気で行う

各クラス・チームの出し物・レクリエーションなどを行う。

【第3部 送り火のつどい】 ※静かな雰囲気の中で行う

① 献詩

火の司 「まず、はじめに献詩係より献詩をお願いします。」

献詩係 朗読 (例) 坂村真民『あたりまえのこと』

「あたりまえのことを あたりまえにすることができ
あたりまえのことに 感謝できる人になりたい
あたりまえのことを あたりまえにやることが おろそかになってはいないだろうか
あたりまえのことに 感謝できなくて 狂った刺激のみ 追ってはいないだろうか
人間は人間らしくあるという あたりまえのことを 大切にしたい

(団体名、組・科 氏名)」

※献詩の内容は団体に決めてください。

② 静火

火の司 「続いて、火の神がキャンドル台の静火をおこないます。」

火の神 キャンドル台の火を下から順番に1つずつ消していく

③ まとめの言葉

火の司 「ここで、火の長より言葉をお願いします。」

火の長 研修のまとめの言葉

④ 退場

火の司 「火の長と火の神と献詩係が退場します。みなさん、静かにお送りください。」

火の長・火の神・献詩係 退場+必要に応じて **BGM**